



結核しずおか

22号2008年4月28日

発行

財団法人 結核予防会静岡県支部

〒420-0915

静岡市葵区南瀬名町6-20

TEL 054-261-2512

FAX 054-261-9474

Eメール tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp

発行責任者 増田利男

印刷 明和印刷株式会社



巻頭言

「健体康心」でまちづくり

小山町は、静岡県の北東端に位置し、西端は富士山頂を含み、北に山梨と接する籠坂・明神の峠、東は神奈川の丹沢山地、南は箱根外輪山に囲まれた水と緑にあふれる町です。

金太郎の誕生の地ということもあり、「健体康心づくり小山町」をめざして、金太郎のように健康で元気な町づくりを進めています。「健体康心」とは、健体（すこやかな体）と康心（やすらかな心）のことで、心身合わせてはじめて健康であるとの意味です。

本町では、健康への意識は高いものの、健診の受診率にはなかなか反映されず、年々横ばい状態が続いています。このため、平成19年度には夕方は4時から7時まで、土曜日にも健診を実施しましたが、受診率向上には反映されませんでした。

そこで、受診率向上対策として、受診希望を集計してから対象者に受診票等を送付する方法を検証し、平成20年度からは結核健診をはじめ各種がん検診の受診票は、すべての対象者個人ごとに郵送することとしました。また、この郵送に合わせて、受診対象者のみなさんに健康づくりや健診の大切さについて考えていただくための、パンフレットを同封するなどの情報提供を行い、受診率向上の意識啓発を進めることとしています。

健診結果に基づく保健指導事業については、国保や介護スタッフと協力連携し、医療費分析の結果を基に、年齢階層別や男女別の医療費の解析に努め、費用対効果を含め町民のみなさんにわかりやすく、参加しやすい保健事業づくりを目標としています。保健指導の入り口となり、病巣の早期発見につながる健診をいかにして受けてもらうか、結核予防会、結核予防婦人会、地域の保健委員とともに努力していきたいと思えます。



小山町住民福祉部健康課
副主任 鈴木 吏

女性の明るい未来へ

最近、乳がんに対する関心が高まっていますが、検診の重要性への啓発はまだ始まったばかりです。乳がんの発生率は上昇傾向にあり、毎年約35000人の方々がかかっているとされています。これは胃がんを抜いて、女性悪性腫瘍の発生率が1994年より第1位になっています。乳がんは、他のがんに比べて発生年齢のピークが若く40～50代が最も多いという特徴があります。

視触診のみの乳がん検診では発見率・検出率が低く乳がんが無いという保証はできません。皆さん視触診のみでの異常を指摘されなかったことに安心していませんか…？

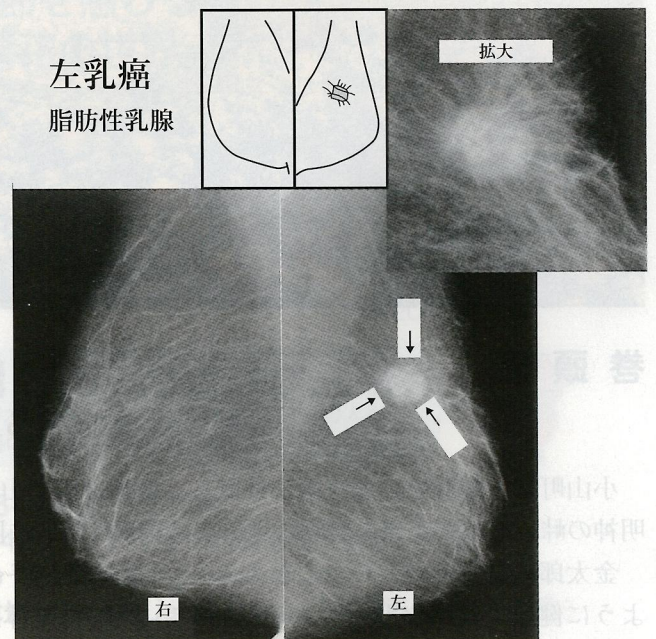
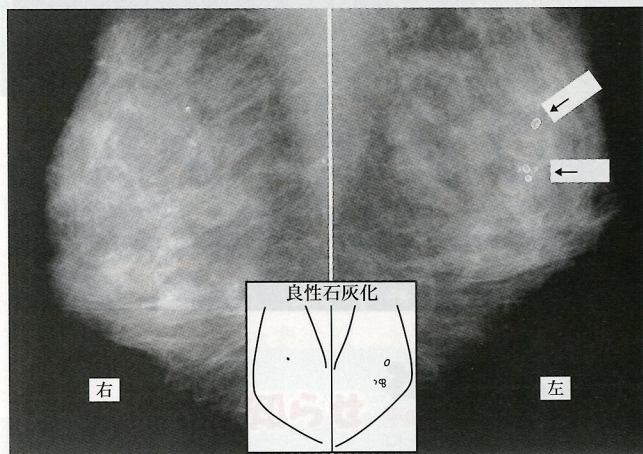
乳がんによる死を減少するには、乳がんを発見するだけでなく《いかに早期にかつ漏れなく乳がんを見つけられるか》が重要であります。その為にはマンモグラフィが大きな鍵を握ると考えられます。

マンモグラフィは視触診単独では判らない《しこり・石灰化》の発見が可能であると共に視触診の約3倍の発見率が得られます。

早期乳がん発見の約90%は完全に治すことができる、又、乳房温存療法（乳房全部を取り除かず、病変部と乳腺の一部のみ切除）の可能性があります。

明るい未来へ、乳がん検診（マンモグラフィ+視触診）を受ける事をお願いします。

検診部長 杉山 保夫



平成19年度財団法人結核予防会静岡県支部長表彰

平成19年度財団法人結核予防会静岡県支部長表彰が行われ、受賞者および受賞団体が決定いたしました。

● 結核予防事業功労者(個人)

西島 緑 様 (熱海健康福祉センター推薦)

菅沼 とし江 様 (中部健康福祉センター推薦)

● 結核対策推進優良市町(団体)

川根町 様 (中部健康福祉センター推薦)

おめでとう
ございます!



沼津市における複十字シール募金の状況

沼津支部では、毎年200万円を目標に募金運動を実施しています。市内には297の自治会があり、その中で結核予防婦人会が組織されている自治会は190であります。有意義な募金運動であり市内全域での取り組みにしたいため、全ての自治会を対象に各自治会の世帯数に応じた割合で募金目標額を設定させていただき協力をお願いしています。

募金運動の実施にあたっては、校区毎の自治会をとりまとめている連合自治会長の定例会へ出席させてもらい、複十字シール自体の説明から募金の主旨や使われ方、前年度の実績報告、募金の取りまとめの方法など説明し、協力をお願いしています。

さらに、市内全世帯に配布される「広報ぬまづ」へ記事の掲載や、各自治会長宅へ直接お伺いし、その自治会分の複十字シールセットを届けながら募金の説明をするなどして周知、協力依頼をしています。

募金の納入方法については、事務局となる市健康づくり課（保健センター）の窓口で受け取るほか、各自治会、婦人会の利便性を考え、沼津支部の募金専用口座を設け郵便局で振り込める形も採用しています。

また近年、自治会や婦人会に属さないマンション等の住民も増えてきたことから、平成19年度からは事務局に募金箱を設置し募金に賛同いただける方はどなたでも募金できるようにいたしました。その他、事務局のOB職員にも協力を仰ぎ、現在の職場等で募金の勧誘をしてもらったりしています。

このような活動の結果、平成19年度の募金額は前年より3,200円増となる1,971,200円を達成することができました。

複十字シール募金運動は結核予防婦人会の重要な活動と考えておりますので、今後も自治会、婦人会、市民の皆様のご理解、ご協力をお願いしながら実施していきたいと思っております。

静岡県結核予防婦人会 沼津支部 大嶽 生江



複十字シール募金運動
健康づくり課（保健センター）
☎055・951・3480
8月1日(水)～9月30日(日)まで、結核予防のための複十字シール募金運動が自治会と結核予防婦人会を通じて行われます（健康づくり課でも募金を受け付けます）。皆さんの温かいご協力をお願いします。



静岡清水保健委員20周年記念事業と健診事業PR

● 静岡市清水保健福祉センター 参事 兼 総括主幹 杉村 千恵子 ●

清水保健委員協議会は昭和63年発足し、今年で20周年を迎えました。平成15年の新静岡市誕生後も清水保健委員として継続し、平成18年には蒲原が加わり現在約360名の保健委員が活躍しております。

20周年の記念事業として、「上手なコミュニケーションで元気なコミュニティづくり」と題してPHP研究所認定ビジネスコーチの佐藤利光先生の講演会を開催することができました。保健委員さんは清水区内87会場で開催されているコミュニティデイサービスにもボランティアとして従事しているため、講演会で学んだ上手なコミュニティの進め方など、日頃の活動にすぐにも生かされる内容で大好評でした。当日保健委員さんは、お揃いの赤いジャンパーを着て、健康チェックコーナーを設置し保健師と共に骨密度測定・体脂肪測定・血圧測定などを実施し、約450人の市民参加がありました。結核予防会からはマンモグラフィ検診車を配備してもらい、啓発活動に併せて乳がん検診も実施することができました。健康づくりデーとして保健委員さんは大活躍でした。

本年は乳がん・子宮がんの受診率向上をめざして、女性検診のポスター作成や健診アンケートを実施、また20歳以上の女性に検診再勧奨はがきを郵送しました。再勧奨はがき郵送の後、問い合わせが多数あり、「どこで受けられるのか」といった内容も多く、いかにきめ細かなPRをしていなかったか、ということを反省したところです。

4月から開始の特定健診・特定保健指導に向けて、関係課が検討して健診案内冊子「健診まるわかりガイド」を作成し、3月15日号の広報に併せて全戸配布したところです。「社会保険の場合は？」等、市民からの問い合わせに追われている毎日です。



第12回結核予防関係婦人団体中央講習会に参加して

静岡県結核予防婦人会 駿東支部長 久保田 博子

平成20年2月6日から8日までメルパルク東京を会場に101名の参加者で開催されました。結核予防における女性の役割を認識し結核対策、結核国際協力の強化、呼吸器疾患対策、生活習慣病対策を主にした講習会でした。内容は講演が5項目とビデオ上映、各地域の情報交換会という事で行われました。

主催者からは、世界の結核をなくす運動は出会いを通して、経験・知識・組織を一つに総力をあげて今後の活動を進めていく大事な時期であるとの挨拶がありました。

総裁の秋篠宮妃殿下より「ストップ結核パートナーシップの活動をする為に生活習慣病と平行して対策をたて、健康の輪を拡げて豊かな安心した生活ができるように望みます」とのお言葉を賜りました。来賓として厚生労働省健康局長より、講習会で得た知識を各地で拡めるようにとの挨拶でした。

講習の内容を大まかに記します。健康づくりは予備軍の前の段階で減らしていく仕組みをすることです。医療費適正化の総合的推進を図り、質の高い医療を提供していく。アドバイスを受けられるようなバランスのとれた環境にし、行政・医療・地域が一体となって健康づくりを地域文化として拡げていくことです。COPDについては自覚症状のない早期に受診し、発見治療をしなければなりません。喫煙者の側にいる人も受動喫煙となり発病します。患者が多く死亡率も高くなっています。元気になるには季節の物を食べ偏らない食生活をする事です。元気で長生きを心掛け長命社会ではなく長寿社会を作るのです。

カンボジア結核対策スタディツアーのビデオを見ました。日本が支援している事やドッツを実行している様子も分かりました。国際協力は複十字シール募金で支援しています。結核は世界の1/3が感染し、アジアやアフリカが多くなっています。超多剤耐性結核菌が増え45ヶ国に拡大し、日本でも増えています。今対処しないと大変な事になります。日本の支援で86ヶ国の1700名を超える人材が育成され、世界中で活躍しています。シール募金によって行われています。募金は婦人会の協力が30%を占めています。

交歓会では、この会を知らない人が多いのでPRする事、特に行政に知ってもらうことです。そして募金の品を常に使用する物に代えたらどうかとの意見になりました。PRは県民だよりに掲載するのもいいと思います。

この講習会を通して個々の力は小さいが、皆で力を合わせれば大きな力となることを学びました。自分の活動の認識を確かなものとし、人々に理解して頂くことが大事だと痛切に感じました。活動に誇りを持って当たっていきたいと思います。

大切な時間を与えて頂きましたことに心より感謝申し上げます。



平成19年度結核予防リーダー研修会開催報告



『平成19年度結核予防リーダー研修会』を下記のとおり開催いたしました。145名の参加を得て、有意義な研修会となりましたことを報告いたします。

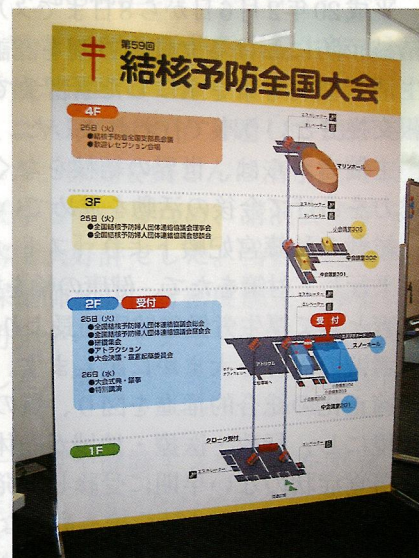
日 時	平成20年3月6日(木) 午後1時～4時
会 場	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」 6階 大ホール
講演内容	講師 独立行政法人労働者健康福祉機構 浜松労災病院 副院長 井上邦雄先生 演題 「気軽に始める『生活習慣病』予防 ―こぶとりじいさんのすすめ―」 内容 『痩せすぎ』よりは『小太り』で、神経質にはなりすぎない生活習慣病予防の提唱
	講師 医療法人社団樹の花会 立花クリニック 理事長 立花昭生先生 演題 「結核の現状と問題点」 内容 結核の基礎知識および現状における問題点など

第59回結核予防全国大会に参加して

東京駅から上越新幹線乗り換えて約2時間余りで、まだ残雪がそこかしこに見受けられる景色を眺めながら、米どころ新潟へ到着した。

大会は結核予防会総裁秋篠宮妃殿下のご臨席をいただき、平成20年3月25～26日の2日間、新潟市の朱鷺メッセに全国から大勢の参加のもと盛大に開催されました。

第1日目は全国支部長会議、結核予防婦人団体連絡協議会総会、研鑽集会及びアトラクションを開催、そして第2日目の大会式典は秩父宮妃記念結核予防功労賞表彰と特別講演がありました。



研鑽集会

主題は国境なき感染症「結核」の制圧を目指して

座長の財団法人結核予防会研究所の加藤副所長が、“わが国の結核罹患は近年減少傾向が持続しつつ、罹患率を欧米の先進国に比較すると、30年程遅れを取っている。また、世界に類を見ない結核患者の高齢化、都市における社会経済的弱者と若年患者、後を絶たない集団感染事件、多剤耐性結核など、課題を抱えている。そして又、わが国の結核患者の中で、外国人の占める割合は3%程度とまだ小さいが、近年徐々に増加を続けている。”と話されました。

基調講演は、「結核予防と国際連携」のテーマで、シンポジウム形式で行われ、シンポジスト6名より、新潟県の結核対策－世界との接点、結核予防婦人会の地区・組織活動、アジアの結核対策と連携、そして、ストップ結核パートナーシップ日本とはと題してそれぞれに発表され、猛威を振っているアジアでの結核対策支援が国内患者の減少につながると議論されました。そしてアトラクションでは、篠笛と津軽三味線で新たな世界を創ると題して、コンサートが行われ、その音色に酔いしれました。

大会式典および特別講演



結核予防会総裁秋篠宮妃殿下よりお言葉を頂き、結核根絶に向け、地域の特性を十分把握した上で、邁進せねばならないと思いました。

特別講演は、来年のNHK大河ドラマとして放映される「天地人」と題して、戦国の武将、直江兼続の武士たちが描いた歴史のドラマを、地元作家火坂雅志氏が熱く語られた講演であった。

二日間を通して、結核に関する知識を深め、地道に努力することが結核の根絶につながることだと、思いを新たにしました。

● 事業部課長補佐 石上 幸治 ●

県民に信頼される 健診機関を目指して



はじめに

当支部は、昭和15年結核予防会静岡県支部として、静岡県庁の予防課内に県の結核行政の一環として設立され、終戦後の昭和29年に財団法人として認可されました。

昭和41年度には結核予防センターを現所在地に開所し、設立以来70年近くにわたり結核対策を推進してまいりました。

健診業務への取り組み

静岡県は東西に155キロメートルと細長く、新幹線の駅も熱海、三島、新富士、静岡、掛川、浜松と6駅あります。このため、健診事業は健診車による出張健診が中心となっております。

昭和31年に最初のX線健診車を導入し健診を開始して以来、県からの健診車の無償貸与も含め、健診車を拡充してまいりましたが、現在胸部健診車11台、胃部健診車2台、胃・胸共用車1台、マンモグラフィ1台、計15台体制で稼動しております。

平成18年度の健診は、感染症予防法及び学校保健法による結核健診、老人保健法による肺がん及び胃がん健診、労働安全衛生法による事業所健診を健診車及び所内において実施しました。また、18年度からマンモグラフィによる乳がん健診をスタートしたところであります。

さらに、住民健診における肺がん健診・胃がん健診の促進、事業所における総合健診実施など健診の質的拡大を図るほか、通常の受診が困難な者への携帯用X線装置による健診も実施し、健診機関としての役割を担いました。

健診の対象者は、学校健診279校46,800人、住民健診13市町107,000人、事業所健診760事業所76,600人でした。

当支部は健診事業を行なうにあたり、委託団体の担当者と健診結果など情報交換を頻繁に行い、要望を的確に把握するとともに、健診の結果出しを迅速に行い、要精密検査者へ医師の紹介を行うなどきめ細かなサービスに努めてまいりました。



おわりに

静岡県支部は、結核予防会単独支部です。

現在は医療制度改革の中にあり、健診を取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、このような中であって地域住民に求められる健診機関になるべく、職員一同努めているところです。

事務局長 増田 利男
複十字No318より転載

(員 藤 泉 元) 職 長 木 村 : 選 任 派 遣 (員 藤 昭 支 元) 副 中 田 : 幸 遇

副 主 任 鈴 木 史



複十字シール運動



平成19年度も結核をはじめその他胸の病気の撲滅のために、複十字シール運動にご協力いただき誠にありがとうございました。皆様のあたたかい善意にささえられ目標を上回る実績を得ることができました。心から感謝申し上げますとともに、今年度も変わらないご協力をお願いいたします。

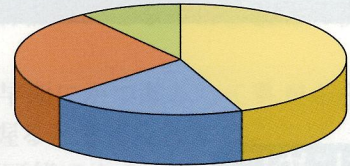


平成19年度募金実績

総額 **1,828万円**

(組織募金 1,631万円)
(郵送募金 197万円)

募金の使途



■ 県結核予防婦人会助成費	44%
■ 複十字シール製作費	19%
■ 検診車購入積立資金	27%
■ 普及啓発費等	10%



平成20年度 シール紹介 安野光雅の楽しい世界 第7回

季節を感じる 草花の世界

平成20年度の作品は、みなさまのなじみ深い草花がモチーフとなっています。目にふれることがあっても、名も知らずそばによりそってくれるそんな心温まる草花の絵にきっと幸せな気持ちとさせてくれるでしょう。今年のシールはみずみずしい生命力のあるデザインです。あたたかみ溢れる色調がみなさまに元気を与えてくれることを祈ります。



平成20年度シール

お知らせ

社団法人公共機構 (AC) のCMが決定

平成20年7月から、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌などを通じて多くの人々へ日本の結核問題の現状や国際協力等の普及啓発活動を行います。



お問い合わせは

財団法人
結核予防会静岡県支部

電話 054-261-2512(代)
住所 〒420-0915 静岡市葵区南瀬名町6-20
e-mail tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp
URL <http://www.jatahq.org> (財団法人結核予防会)

編集後記

平成20年度は、健診機関として大きな制度改正の年であります。ひとつには4月1日より、生活習慣病予防の観点から、医療保険者にメタボリック対策のための特定健康診査・特定保健指導の実施が義務付けられることとなり、健康診断の受診機関としても非常に大きな影響を受けることになりました。

もうひとつには、12月1日から始まる公益法人としての新制度への移行の問題です。結核予防会は財団法人という公益法人ですが、平成20年12月1日から5年以内に、公益認定を受けて公益財団法人に移行するか、認可を受けて一般財団法人になるかの分かれ道です。私たちはより公益性の高い公益財団法人を目指したいと思いますが、これもなかなか困難な問題であります。(増田記)

題字：田中隆 (元支部職員) 表紙撮影：村木弘知 (元県職員)